

上海で生まれた上海語

上海駐在員事務所

秘書 王一

中国では、公用語として「普通語(プートンホァ)」と呼ばれる言葉(日本では「北京語」と呼ばれます)が使われていますが、各地方においては一般的にその地方の方言が日常語として使われています。ここ上海でも地元の人同士がコミュニケーションを取る際には上海語が使われていますが、最近では上海語を話せる人達が減少してきており、地元では上海語を保護するための活動が始まっています。

現在私たちが使っている上海語は、今から約 170 年前、ちょうど上海が対外港として開港された時期に、近隣の浙江省や江蘇省から移り住んできた人たちの言葉と融合しながら徐々に確立されていきました。近年では学校教育の場でも北京語が公用語となっているため、上海語を話す機会も減ってきており、中には祖父母と話す時に上海語ではうまく表現ができない子供たちもいるようです。また、70 年代～80 年代生まれの人たちが使う上海語も北京語が混じった上海語であり、年配の方たちはこれを「^{ようけいひん}洋涇浜上海語」と呼んでいます。これは、19 世紀後半、上海が租界(外国人居留地)であった頃、当時^{ようけいひん}洋涇浜(現在の延安東路あたり)と呼ばれていた地区に中国訛りの英語を話す人たちが多くいたことから、文法や発音が少しおかしい上海語という意味合いで「^{ようけいひん}洋涇浜上海語」と呼ばれています。

上海語の発展に伴って、地方色豊かな文化も築き上げられてきました。「上海説唱」、「浦東説書」などは、上海語で台詞や歌を歌いながら歴史的な物語を語る伝統芸能として有名ですが、現在では伝統的な上海語を話せる人が減少しているため、それらを受け継ぐ人たちがおらず伝承が途絶えることが懸念されています。また、上海語で演じる「^{こげき}滬劇」(京劇の上海版)は中国の伝統的な演劇の 1 つですが、「^{こげき}滬劇」を教える上海^{こげき}滬劇学院では正しく上海語を発音できる人が少なくなってきたため、生徒を思うように募集できない状況となっています。

こうした上海語の現状を重く見た上海市政府は、上海語の保護を図るため様々な政策を打ち出しています。例えば、正しく発音された上海語を録音し将来のために保存したり、テレビ番組などにおいても上海語のドラマやバラエティ番組を増やしたりしています。

上海語は時代の流れとともに変化してきていますが、伝統的な上海語は上海の民俗と文化を表現したものであると同時に、中国の多民族文化の維持発展を象徴するものでもあります。これからも上海の人たち、特に若者には北京語だけでなく上海語も忘れないように大事にしてほしいと思います。



外国人向け上海語のテキストもあります